

レジュメ原稿様式

「連携マネージャーとしての取り組みの中で見えてきた現状と課題及び今後の提案」

○発表者名 祥福園・なごみ連携マネージャー 浅井誠司

1. 問題提起

サポートセンターなごみはわかとり作業所うらの公園跡地に移転をし、障がいを持つ方、高齢者の方の生活サポートをメインとして業務を行ってきた。業務を行っている中で各事業にそれぞれ課題があることがわかった。

2. 目的

各事業における問題点を洗い出し、問題点を出来る限り解消できるような手段がないかを探ることとした。

3. 方法

各事業所の責任者と話し合いを行い、現状と課題を洗い出してもらい、どうすれば問題を解決してより良い事業所として発展させることが出来るかの聞き取り調査を行った。

4. 成果・課題

①～⑤の問題点についての解決出来た点、解決出来てない点を記載する。

- ① 新しい活動室の確保 → 建設費用等の予算面の問題もあるため解決に至っていない。
- ② ご家族へのフォロー → 入浴支援、散髪、SS 利用などの提案等を事業所で出来る範囲で行っている。
- ③ ヘルパーの増員 → ヘルパーの増員が出来ていないため、「サポートセンターなごみ」の補助を通所部の職員が行っているのが現状であり、問題点の解決に至っていない。通所部の職員に有償運送講習等を受けてもらうようにしている。
- ④ ⑤ 緊急時の対応が出来ないため、他の事業所を利用されそのままになる方も多い。また、ヘルパーが高齢化しており、恐らく今後はヘルパーが減少していくため、ヘルパーの人数に合わせた事業展開しか出来なくなると予測される。この件についても解決に至っていない。

結果としての提案はあくまでも一つの提案であり、これ以外にもまだ改善点はあるかもしれない。状況によっては「サポートセンターなごみ」だけの問題に限らず、法人として考える必要があるのではないかと考える。

サポートセンターなごみの紹介

サポートセンターなごみは、わかとり作業所裏の児童公園跡地に移転を行い、**障がいを持つ方**の
 ○生活介護支援（祥福園通所部）、
 ○居宅介護、行動援護、同行援護、移動支援（サポートセンターなごみ）

また、**高齢の方の在宅支援**として
 ○訪問介護（サポートセンターなごみ）
 などの事業を行っている。

連携マネージャーとしての の取り組み

サポートセンターなごみにおける現状と課題及び今後の提案

祥福園・なごみ連携マネージャー 浅井誠司

1. 祥福園通所部の利用者の紹介

男性 8名 20歳代3名、30歳代2名、40歳代1名、50歳代2名
平均年齢37.4歳 平均支援区分 5.0
 女性 7名 20歳代2名、40歳代4名、70歳代1名
平均年齢43.0歳 平均支援区分 5.6 合計15名
 15名の利用者のうち
マンツーマン対応の利用者 8名

理由：パニックがあると自傷行為につながる。音に過敏に反応してんかん発作につながる。施設からの飛び出しがある等々
 職員 6名で対応

2. 曜日別の利用者数

月曜日	5名	マンツーマン対応の方2名、 （入浴支援）	身体障がいの方1名
火曜日	6名	マンツーマン対応の方1名、 （入浴支援）、入浴見守りの方1名	身体障がいの方1名
水曜日	6名	マンツーマン対応の方2名 （入浴支援含む）	
木曜日	6名	マンツーマン対応の方2名	
金曜日	6名	マンツーマン対応の方2名 （入浴支援1名含む）	
土曜日（開所日）	2～5名	マンツーマン対応の方1～2名	

※ほぼ全ての施設の開所日においてマンツーマン対応の方が1～2名おられることになる。

3. サポートセンターなごみ利用者数 (1か月の延べ利用者数) R8.1現在

障がい者支援 登録者数123名 延べ利用者数 427名

○**居宅介護**：利用者の居宅を訪問し、食事・排泄・入浴等の支援を行う。
(205名)

○**行動支援**：利用者が行動するにあたり、排泄・食事・危険回避等の支援を行う。(71名)

○**同行支援**：視覚障がいの利用者の移動外出等の支援を行う。(5名)

○**移動支援**：利用者の買物、通院、余暇利用等に同行し支援する。(146名)

※ 毎月4～5件の新規利用問合せがあるが、職員不足もあり、対応しきれない。

知的障がいの者の支援がメインだが、身体障がいの方や視覚障がいの方の支援も行う。

高齢者支援 登録者数 35名 (業務移管前は約70名)

○訪問介護：利用者の居宅を訪問し食事・排泄・入浴等の支援を行う。
(245名)

※ 月1～2件の新規依頼問合せあり。また同数位の利用契約終了もある。特に冬季は、入院されたり、老人施設でのショートステイ等に入られる方もあり、そのまま入院や入所をされ契約終了になる方もある。また、高齢のため亡くなられる方もある。高齢の障がいの者の支援も行う。

4. 現状と課題
祥福園通所部

- ① 利用者によっては、他の利用者の干渉を良く思われない方もあるため、同室での支援に苦慮している。このため、曜日によっては利用時間をずらして利用して頂いている。
- ② マンツーマン対応の利用者の方が多く、常に見守りが必要である。このため、職員の休憩時間の確保が難しい。
- ③ 利用者の方の加齢と共に以前は出来ていたことが、徐々に出来なくなってきた方も増えつつある。それに伴い、保護者の方も家庭で出ないことも増えてきているため、フォローが必要となる。

サポートセンターなごみ(障がい支援)

- ④ ヘルパーの不足。毎月4～5件の新規依頼があるが、現状の職員(10名)の人数では対応が出来ず、お断りをする場合が多い。
- サポートセンターなごみ (訪問介護)
- ⑤ 冬季の利用者の減少。全体的な利用登録の減少。伯耆の国からの業務移管をする前は利用登録が約70名だったが、現在は35名位に減少している。
 - ⑥ ヘルパーの不足。(70歳代が多く、若い世代の補充が出来ていない。)

5. 課題解決に向けて
- ① 現在の活動室（3部屋）のスペースより小さくても良いので、利用者の方に個別で対応できるスペースが必要と思われる。
 - ② ご自宅での入浴が困難な利用者の方の入浴支援や散髪等の支援を行っている。
 - ③ ヘルパーの確保が必要だが、ヘルパー資格や有償運送の受講が必要なため、職員に講習等に参加してもらっている。
- ④ 冬季の利用者減は従来からあり、恐らくどこの訪問介護事業所でもありうることだと思われる。暖かくなり在宅となると再開となるが、そのまま病院や施設に行かれる方もある。また、緊急でケアマネから依頼があり、対応できないと他の事業所が入る形となり、次回からの新規依頼が減ることになる。
 - ⑤ ヘルパーの高齢化（現在70歳代）が進んでいる。今後職員の補充が出来ない場合は、職員の人数に応じた対応しか出来ないため事業規模の縮小も検討していく必要がある。

6. 「サポートセンターなごみ」の課題解決に向けての提案

- 現在の祥福園通所部は、「サポートセンターなごみ」のスペースを利用して別部署となっている。また、説明したとおり、「サポートセンターなごみ」では特にヘルパー不足が大きな課題となっている。但し、ヘルパー業務は資格が必要である。このため、以下の提案を行う。
- (1) 利用者スペースの拡充。
 - (2) 職員の増員。
 - (3) 「サポートセンターなごみ」を通所部、障がい支援、訪問介護の3部門とする。
 - (4) 全ての職員がヘルパー、有償運送の資格を取得し、通所部、障がい支援、訪問介護の業務に携わる形とし部門ごとの不足を補う。